

駅舎立ち寄り日本鉄道つたい歩き旅

宗谷本線(稚内=和寒:223.1km)8泊9日の旅IV

1973年卒(数学専攻) 檜原 勉

<7日目> 2015年6月26日(金)曇り/晴れ

3時半頃起床。昨夜買って来たパン等で朝食。そして、本日のコースを勉強する。昨夜の歩きでずぶねれの靴を親切にもご主人か女将さんのいずれかが古新聞を入れて乾かしてくれていた。感謝あるのみ。それ故、ドライアを当てずにすむ。体調を整えて、松屋旅館のご主人と奥様にお礼の挨拶をして、この旅館を後にする。昨夜頂いたタオルが思い出の品になろう。昨日と同様、豊富駅 7 発6時 49 分の列車で佐久駅まで移動する。運賃は1,270円要する。昨日、下沼駅をクリアできなかったのが、この駅舎を車中から撮る。駅舎は歌内や安牛駅のような列車改造の駅舎であった。

豊富からは幌延まで3日間、同じ電車になった高校生数人がいた。この高校生は、幌延駅で下車する。その後は乗客が私を含め2人きりとなる。雄信内駅で上り・下りの列車が離合する。リュックを背負った男性の乗客も問寒別駅で下車。問寒別から佐久まで私一人となる。私が下車した佐久で2人の女性客が乗ってくる。佐久駅には7時54分到着。佐久駅舎内をデジカメに収める。今は無人駅ではあるが、由緒ある感じの駅舎であったので、かつては駅長もいたのであろう。数分この駅に立ち止り、種々のアングルから記念写真。一昨日と反対方面に進む。



車両内



佐久駅

8時8分、383歩ある佐久橋(天塩川)を横切り、国道40号線(8時12分)に出る。8時18分、旭川152km。名寄75km。音威子府23kmの道路標識前を通過。8時26分、中川町富和通過。8時41分、旭川150km地点に。この近郊で、道路に横たわっていたカタツムリを拾い上げる。このカタツムリが道中の友となる。



天塩川



旅の友“カタツムリ君”

Ipodをロストしたが、このカタツムリが癒してくれる。このカタツムリは、自宅まで大切にもち帰り、自宅内の紫陽花の上に放してあげる。薄日となる。9時37分、旭川146km地点に到達。トンネル(富和覆道)がその先にあった。少し行った先に全長955mの富和トンネル(1,689歩)があった。10時4分、トンネルを出ると薄曇りとなる。バッグから高校同窓の門口先輩から頂いた黄色い雨具を外す。この雨具は何度か大変お世話になっている。10時12分、中川町神路(かみし)を通過。直ぐ先に旭川まで144km地点があった。

10時32分、道路工事あり。10時48分、落石除け

のトンネルを括る。11時3分、140km地点を通過。走ったり歩きながら進む。荷物を持つとジョギングは厳しいものがある。それにしても、箴島(おさしま)までの18kmは長く感じた。歩いても歩いても着かない。左手には天塩川が依然と続く。11時30分、旭川139km、名寄61km、音威子府10km地点に到達。11時33分、36歩ある岡穂内橋(オカホナイ川)を渡る。ここから中川町から音威子府村に入る。11時39分、箴島の地名前を通過。11時43分、岡穂内覆道。200mあけて物満内覆道があった。この近郊で自転車野郎と対面する。

11時12分、天塩川向う岸の山間から下り列車通過の音がする。11時18分、「ピタン」という鳥の鳴き声を耳にする。12時17分、北海道命名の地と記した看板の入口があった。



12時23分、110歩ある鬼差辺橋(鬼差辺川)を渡る。12時33分、やっとのことで、449歩ある箴島大橋を渡る。12時44分、安牛駅のような列車改造の箴島駅には12時44分到着。駅前の近郊にはまばらではあるが、数十軒の民家の集落が天塩川に沿って広がっていた。佐久と箴島の18km区間には1軒も民家はなかった。12時57分、箴島大橋まで戻り、音威子府駅を目指す。



箴島大橋

13時7分、橋をわたると、旭川134km。名寄57km。音威子府市街5km地点に到達。13時23分、163歩ある物満内(ものもない)橋(物満内川)を渡る。この辺りからトラック多し。13時32分、係り員の方に誘導してもらい道路を通り抜ける。この係員の方は、名寄出身とのことであった。「この道路には人は殆ど通らない。名寄近郊でも熊が出ることもありますので。頑張ってください」とのコメントを頂く。

13時54分、130km地点に到達。14時12分、587歩ある音威子府橋を渡る。風冷たし。14時19分、T路地交差点に休憩場がある。ここから市街地に入る。14時23分、コンビニ千見寿で水分補給。山小屋風のユニークな駅舎の音威子府駅には14時26分到着。この村は北海道はおろか日本で最も小さい村らしいとのことだが、何か特色・光るものを感じる印象深い村であった。これからも独自性を発揮し頑張ってもらいたいものだ。14時31分、北星しんきんがあった。音威子府郵便局もあった。14時36分、音威子府小中学校前を通過。14時38分、音威子府高等学校前の看板を通過。14時42分、音威子府村100年記念塔前通過。14時44分、これまで稚内や豊富等で見かけたセイコーマートがあった。



道の駅 千見寿

14時48分、音威子府跨線橋を渡り、鉄道の左側となる。14時55分、ジョギング姿の若者(高校生か)二人と対面。挨拶をされる。15時33分、踏切を横切り、400m位戻る、その先に咲来(さくる)駅があった。15時43分到着。分かりにくいところにあった。15時43分、先程の踏切(歌登咲来停車場線)のところに戻る。上りの特急電車が通過して行く。ここから天塩川温泉駅で止めにするか予定通り豊清水駅まで歩くか迷うが。用心して天塩川温泉駅で上がりとする。16時、名寄45km、美深26kmの道路標識前を通過。

16時13分、弁慶橋を通過。16時28分、天塩川温泉の看板先で国道40号線を右折し、幹線道路に入る。15線踏切を横切った先に天塩川温泉駅(16時45分)があった。この駅舎で遅い昼食を摂る。旭川行きの列車は17時32分であった。名寄まで運賃は930円だった。



歌登咲来停車場線

18時45分、ニュー富士屋ホテルに到着。部屋は211号室であった。宿泊料は本日と明日分を合わせて10,400円だった。何となく我が家に戻ったような心境になる。駅前の三星食堂で野菜炒め定食で夕食。ホテルの界隈のローソンで黒霧島のボトル等(1,888円)を買い、ホテルで晩酌。本日の営業キロは32.1km、万歩計は60,011歩であった。それにしても佐久～箴島の18kmは長かった。本日も充実した一日であった。後は、明日天塩温泉～名寄までの45.3kmのこのシリーズの総仕上げとしての挑戦だ。うきうきした気分と不安を一杯抱えて就寝する。

<8日目> 6月27日(土)曇り/晴れ

いよいよ、本日は稚内～和寒までの集大成である。6時前に起床し、朝風呂入り、作戦を練る。昨日、歩きを共にしたカタツムリが元気であったのでホットする。6時50分頃、ホテルのロビーで朝食(パン、茹で卵、コーヒー)。7時半頃ホテルを出る。

道路地図をお見せしながら、駅員さんに、北星から日進に通り抜けられるか否か確認する。予想通り天塩川が立ち塞がり、「できない」との回答を得る。本日は、名寄を7時50分発なので、これまでのウォーキングの中ではゆっくりしていた。しかし、営業キロは、天塩川温泉～名寄まで45.3kmで、これまでのウォーキングの中で最長距離への挑戦となる。

加えて、智恵文～北星～日進の踏破への道筋が大変そうで不安一杯。しかしながら、小さな冒険家として「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の心境で臨むことにする。歩きやすくするため、ジョギングウェアスタイルで臨むこととする。名寄駅で沢山の高校生が下車する。運賃は930円。名寄から再度天塩川温泉まで風景を見ながら進む。6月22日の南稚内の移動以来、2度目の観察である。日進から智恵文までは山間で難しいようなコースであった。美深駅で列車が離合。天塩川温泉駅には8時43分到着。



名寄駅



天塩川温泉駅

近道し国道40号線には8時54分に出る。9時12分、豊清水駅の看板を見つけ、右折し一般道路に入る。9時20分、清水線踏切を横切り、鉄道の右側を歩く。道路から10m上がったところに豊清水駅があった。駅前には民家はなかった。民家が見えない道路を歩く。

9時38分踏切を横切り、国道40号線(9時41分)に戻る。再び走り出す。10時3分、旭川まで114km地点に到達。曇りから晴れ模様となる。牛舎あり。10時8分、旭川114km、名寄37km、美深市街16km地点に到達。10時21分、45歩ある島呂布橋を通過。一般道に入り、10時26分、国道40号線踏切を横切り鉄道の右側を歩く。頭巾のような駅である恩根内(おんねない)駅には、10時32分到着。

駅前には民家がかかなりあった。10時42分、国道に戻る。一般道、鉄道、国道が複雑に絡み合っていたので、国道に出た際、反対方向に進まないよう用心する。名寄、美深の道路標識の方向に進む。10時44分、617歩ある恩根内大橋(天塩川)を渡る。11時3分、106歩ある大手橋(オテレコッペ川)手前で初めて自動販売機を見つける。ここで水分補給。その先で、3頭の乳牛を見る。11時13分、天塩山弘法寺

第28番札所弘法寺(北海道33観音霊場)前を通過。それにしても、北海道は神社や寺が少ないような気がする。走りながら一句浮かぶ。

「宗谷路よ 勇気をくれた カタツムリ」



広大な牧場

11時38分、道の駅“びふか”で小休止。ソフトクリーム(300円)で一服。10分位休む。11時41分、旭川107km、名寄30km、美深市街9kmの道路標識前を。11時45分、美深町西里を通過。風冷たし。半袖のTシャツの精もあるかもしれないが。11時58分、伝承遊学館(郷土の歴史資料展示)前を通過。その先に西紋神社(12時)があった。この辺りに紋穂内駅があると思われるが、誤って未踏破となる。左手に駅があるにも関わらず、右手にあると思いこんでいたのが失敗。加えて、ジョギングと歩きの併用のため目算を誤ったこともあろう。簡単な駅程未踏破となりやすい。下沼駅に続き今回2度目である。昨年は伊納駅と光珠内駅だった。ただし、伊納駅は精密な地図がないとクリアできないが。



伝承遊学館

紋穂内駅はこの界隈か!! 残念ながら未踏破となる。12時5分、西里3線に到達。自転車野郎と対面。紋穂内駅は西里4なので次と思しき西里2線(12時13分)であった。旭川まで103km地点に到達。12時17分、577歩ある美深大橋(天塩川)を渡る。

天塩川は全長256kmとあった。12時28分、美深町富岡に到達。国道から300m位外れた先に初野駅があった。

13時2分、旭川まで100km地点に到達。13時2分、123歩ある沖金内橋(雄木禽川:おききん)を渡る。13時12分、美深という地名に到達。13時14分、旭川開発建設部士別道路事務所美深分庁舎あり。歩きの流れが掌握できる中川町、音威子府村、美深町のロゴ入りの看板あり。イセキ北海道美深営業所もあり。その先の炭火焼肉“みやおか”で遅い昼食(カツ丼)とする。ご主人と世間話をする。妹さんが神奈川県綾瀬市にお住まいとのことであった。私が入った後、もう一人の客(味噌ラーメン注文)がやって来る。この店で13時20分~14時まで休息とする。名寄市内と同様、有線放送が聞こえて来る街並みを歩き、美深駅には14時11分到着。鉄筋の2階建ての駅舎には25m位高さの塔のような建築物があった。天塩中川駅や音威子府駅と同様賑やかな駅前であった。駅前には何軒かの食堂あり。14時12分、ふれあい公園があった。

美深駅14時19分、7線踏切を横切り鉄道の左側を歩く。ここから地図を見ながら不安な気持ちで走る。14時35分、袋小路にもぶつかる。14時55分、3号線踏切を渡った先に照明灯の施設がない南美深駅に到着。糠南駅や南幌延駅等と同様…。駅前には民家はなし。この駅から智北、智恵文、北星駅と鉄道の左側を歩いた先にある。15時22分、220歩ある大反橋(おおそり:仁宇布川)を渡る。15時8分、名寄美深道路下を潜る。抵抗を受けながら向かい風に立ち向かう。15時25分、智北駅に到着。駅前には民家なし。駅は第3美深名寄線踏切を横切った先にあった。



仁宇布川



智北駅

15時32分、下り列車が通過して行く。15時35分、智恵文沼パークがある。民家が数軒立ち並ぶ智恵文駅には15時50分到着。駅前には郵便局や八幡神社(鳥居)があった。ここの駅舎も勇知駅等と同様、列車を改造したものであった。この鳥居がある角を垂直に走る。智恵文駅から北星駅までは1.9kmあった。16時10分、第二美深名寄線踏切を横切って、鉄道の左側を歩いた先に待望の北星駅(16時11分)あった。糠南と同様、駅舎がないと同様、次の駅である日進は消されていた。これは、歩きでは行けないというマークと思われる、雄信内駅や糠南駅でもこのマークを見たからだ。つまり、天塩川や山が立ち塞がり行き止まり。それ故、再度、走った1.9kmの道筋をピストン運動する。途中、川沿いに沿う近道もあったが、敢えて通らず。

16時31分、八幡神社まで戻る。16時36分、647歩ある煉瓦色の天智橋を通過。智恵文駅から垂直に2km続く直線道路を走る。16時53分、智恵文中学校があった。16時54分、十字路交差点となり、智東という方面を走る。16時59分、真宗大谷派智恵文寺駅があった。

17時2分、86歩ある基線橋(智恵文川)を渡る。

17時26分、鉄道を横切る跨線橋(407歩)を通過。ここから山間となる。天塩川が鉄道に沿って

続く。熊除けに笛を吹きながら5~6kmの鉄道と天塩川の間には続く路を走る。17時4分、倉庫があり。17時40分、第一美深名寄線踏切を横切り、鉄道の左側となる。ここから、本格的な山間となる。すなわち、左手は鉄道に沿った山、右手は天塩川。いかにも熊がでそうな舞台であった。このシリーズ最もスリルがある空間となる。同時に間もなく日没の時間帯だし。そのような心境の中で走り歩きが続く。17時54分、怖い場面の一例をデジカメに収める。悪いことにデジカメの電池マークが黄色となる。それ故、ここからは、撮影を極力抑えて走る。18時7分、山の向こうに間もなく日没となる西日を見る。去年の岩見沢近郊を思い出す。この辺りから畑が広がる。間もなく日進駅だろう。

18時20分、左手に上り列車が通過していく音が

聞こえて来る。安堵の気持ちとなる。同時に民家



不安な山道

が見え出し、犬の鳴き声が聞こえて来る。18時22分、66歩ある赤い智東橋を横切る。18時40分、やっとのことで日進駅に到着。智北日進踏切を横切った先に駅があった。感動また感動。この駅も名寄駅のみで北星駅が消されていた。たまたま居られた、18時46分の最終電車で智北駅に向かうというスポーツ帰りの高校生(五十嵐さん)に、日進駅を背景に記念写真を撮って頂く。感謝感激。この高校生と数分雑談する。感謝の気持ちを述べこの駅を去る。



日進駅

ここから、名寄駅までは平坦な花道が続く。ここからは歩いて進む。18時58分、66歩あるブルーの10号橋(十線川)を進む。19時10分、430歩ある日進橋(名寄川)を渡る。名寄市街を歩く。途中、コンビニに立ち寄りアイス購入。やっとのことで宗谷本線の踏破駅である名寄駅に19時48分到着。約11時間の行程であった。ジョギングを取り入れたからできたのであろう。歩きだけならば、15~16時間は要していただろう。駅前の三星食堂で夕食(エビカレー850円)を摂る。20時25分、帰りがけに、ご主人と女将さんに今回の旅について語る。女将さんによると、「この店は各地から色々な経歴の持ち主が集まる。貴方もその一人。記念として、頂いた名刺をお店の掲示板に貼っておきます。頑張ってください」と。大変感動。20時半過ぎ、ホテルに帰り、本日の成果に対し祝杯を挙げる。昨日買った芋焼酎のボトル霧島

で。本日の営業キロは 45.3km、万歩計は 84,593
歩となった。充実した一日であった。